

第3次丸亀市産業振興計画 アンケート及びヒアリング調査状況

令和4年10月27日（木）14時～
丸亀市産業振興推進会議

目 次

- 1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査・・・・・・・・・2
- 2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査・・・・・・・・・12

1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

【調査概要】

- 調査名称： 「第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査」
- 調査地域： 丸亀市全域
- 対象者： 丸亀商工会議所、飯綾商工会、香川県中小企業家同友会所属の市内事業者
- 実施期間： 令和4年9月1日～10月20日（木）※集計中
- 配布・回収方法： 郵送配布等・WEB上での回答
- 回収数： 276件(WEB回収215件※、同友会58件、紙回収3件) } 最終結果は集計中
※本日はこの215件（令和4年10月20日 午前9時時点）で速報集計
- 有効回収率： ●●.●%（回収数／配布数）

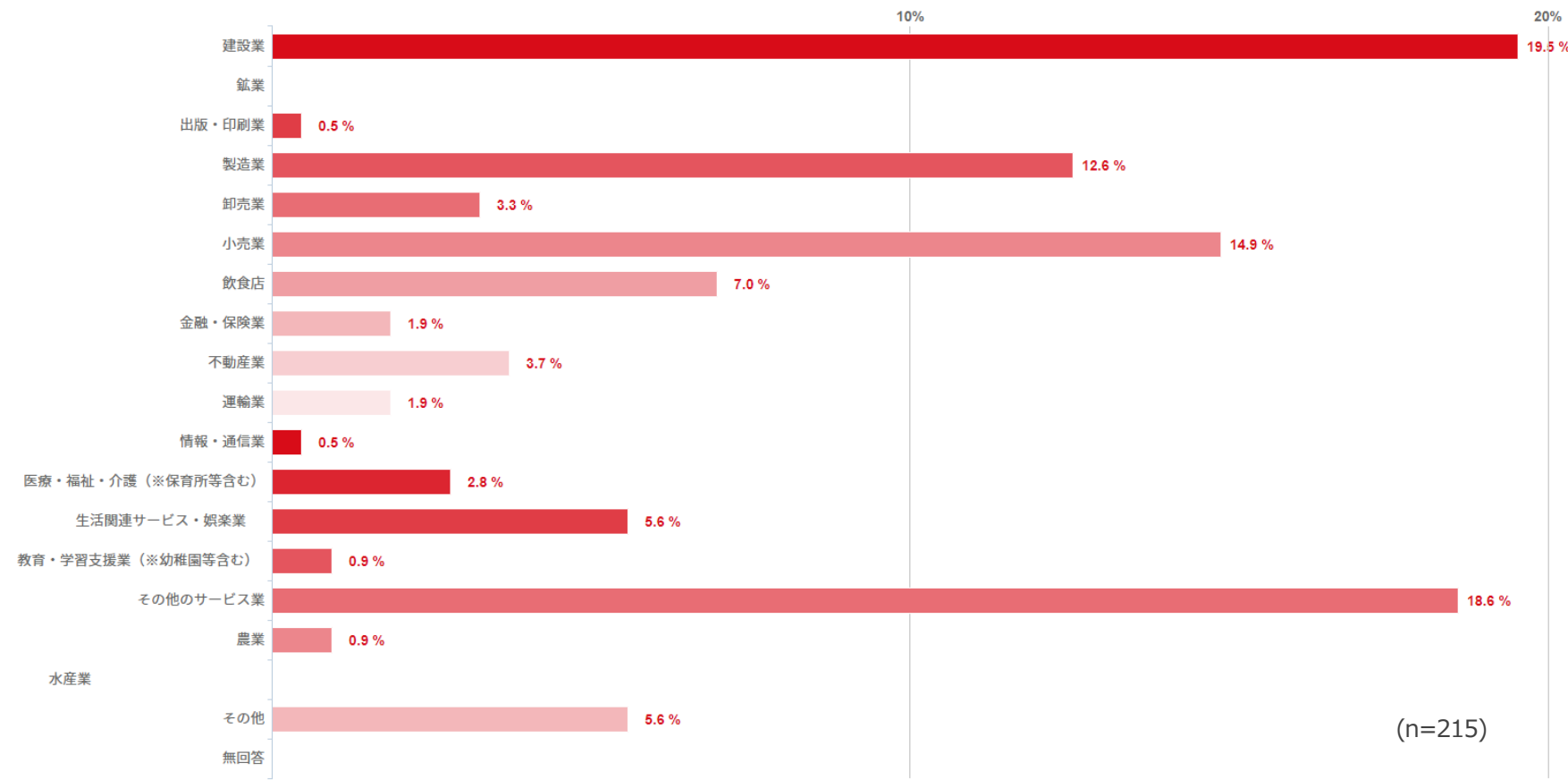
【主な設問】

- 事業所の概要（業種・資本金・従業者数・経営状況等）
- 事業所の課題と今後の取り組み等（経営課題全般、今後の方針・展開等）
- 丸亀市の立地環境（人材確保・企業集積・取引状況・地域経済・施策の充実度等）
- 次世代を見据えた経営への意向について
- 丸亀市における今後の支援施策の方向性

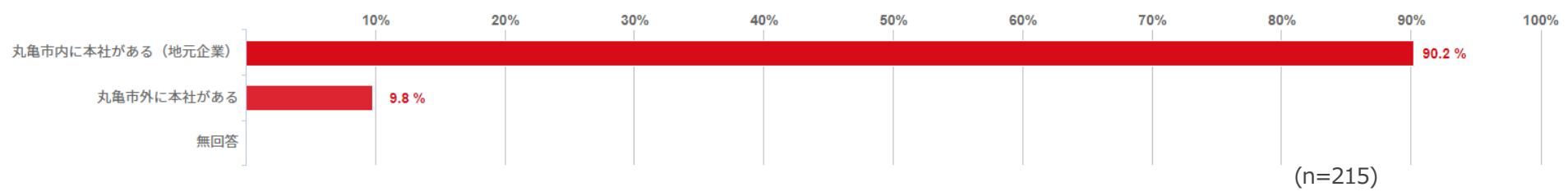
1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【回答者の業種】



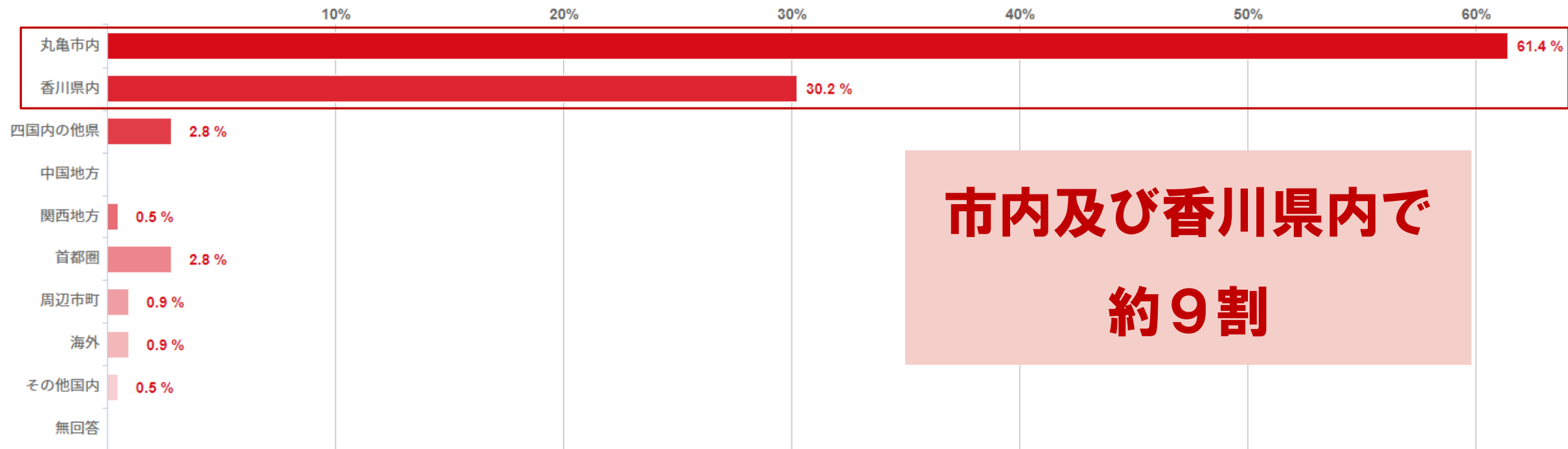
【本社所在地】



1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【売上が最も金額が大きい地域】



(n=215)

【経営状況に係る各種指標】

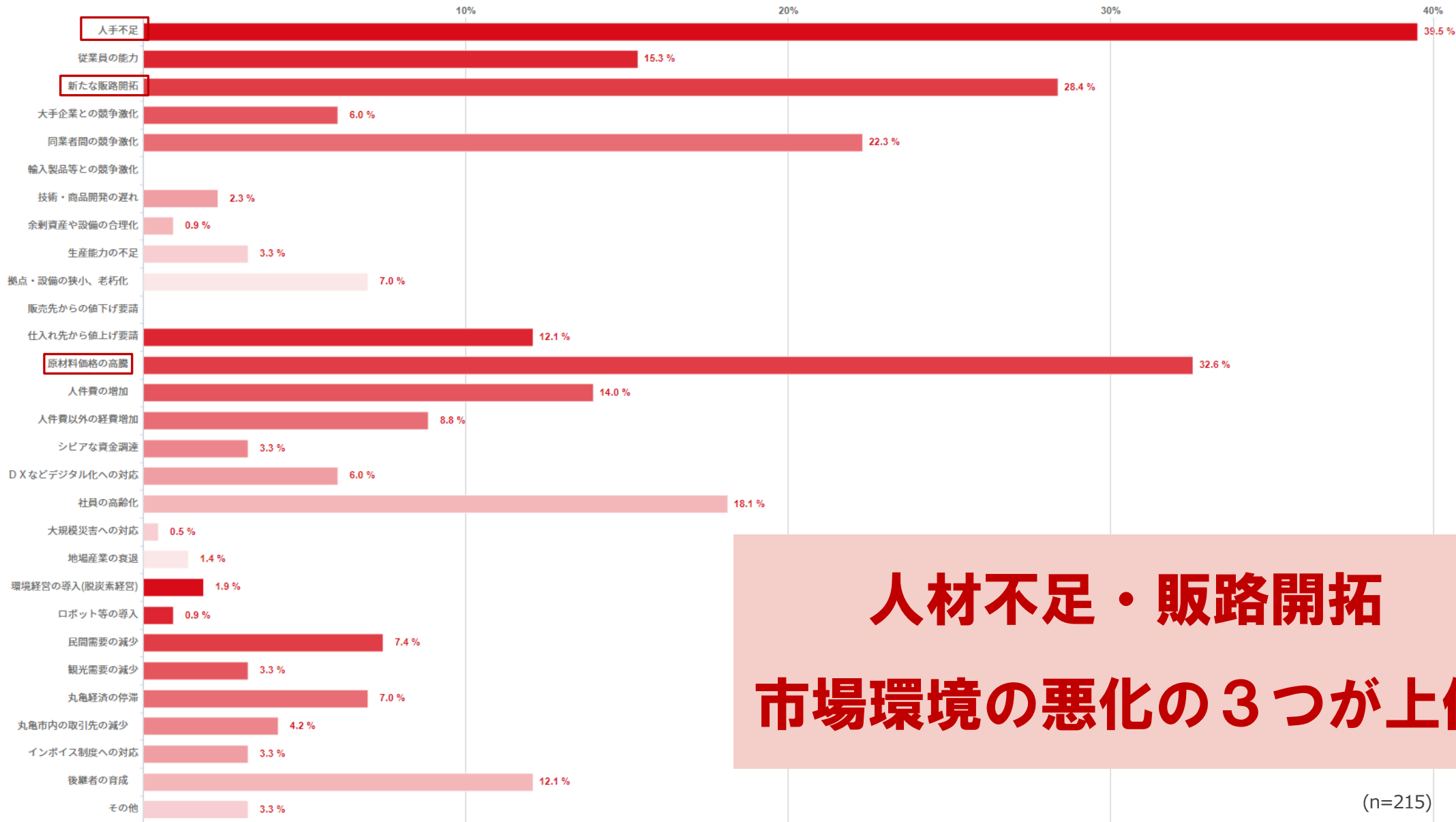
①売上高：	増加26.0%	横ばい24.7%	
②経常利益：	増加24.7%	横ばい25.6%	
③従業員：	増加17.2%	横ばい52.1%	} <u>コロナ禍でも雇用維持</u>
④採用（新卒・中途）：	増加16.3%	横ばい56.3%	
⑤設備投資：	増加31.2%	横ばい44.7%	
⑥デジタル投資：	増加36.3%	横ばい50.2%	

(n=215)

1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【経営課題全般】



人材不足・販路開拓
市場環境の悪化の3つが上位

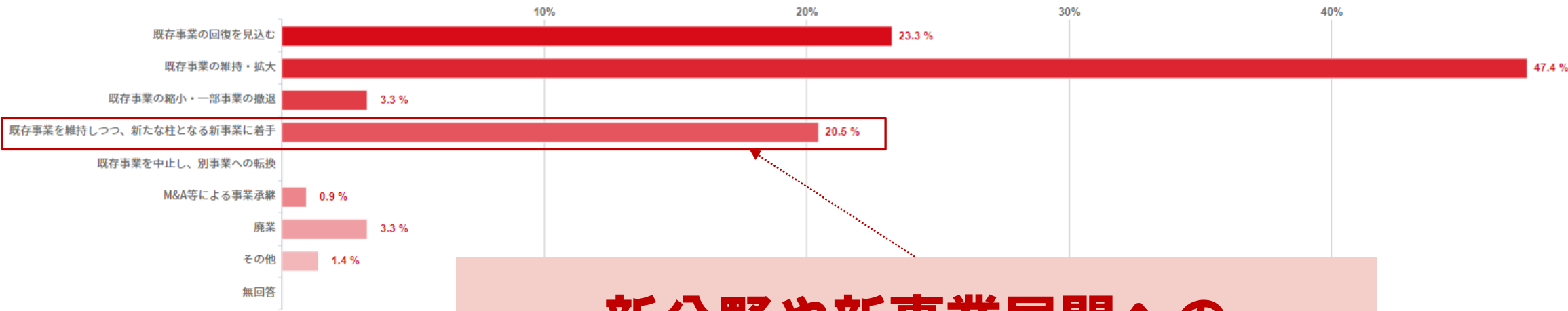
(n=215)

1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

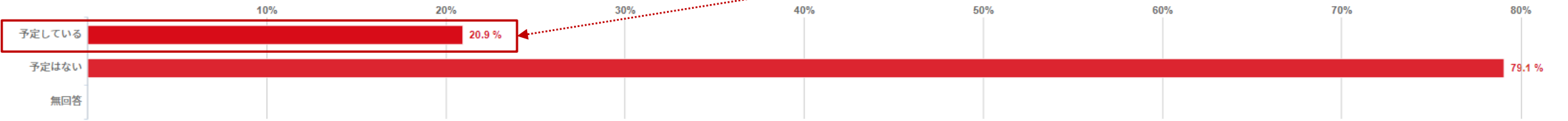
※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【今後の展望・方向性】

【新分野への進出意向】



新分野や新事業展開への
意向が約2割（＝非常に高い）

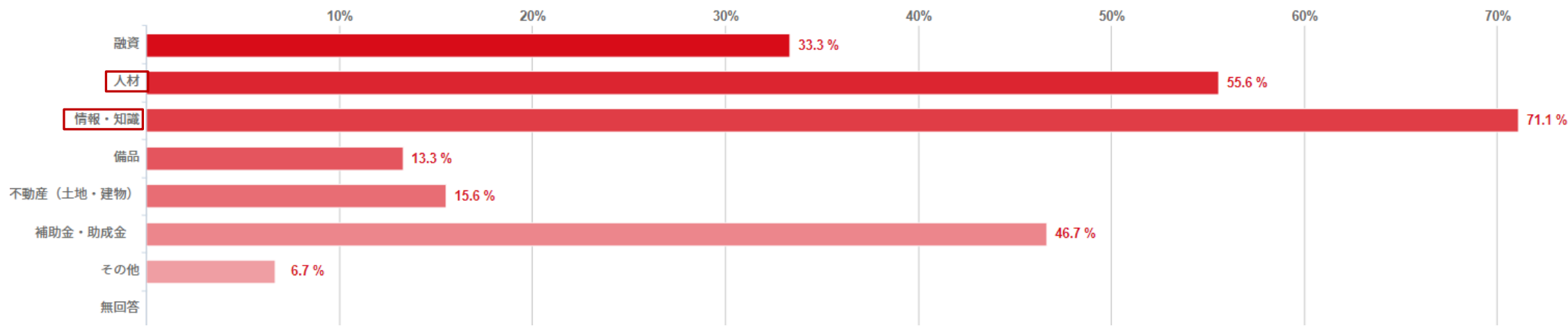


(n=215)

1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【新事業展開に必要な資源】



新事業展開に必要な資源は
「情報・知識」と「人材」

(n=215)

【丸亀市の事業環境に係る満足度】

①取引の拡大や集客への期待：	満足4.2%	どちらかといえば満足21.9%	
②同業種の企業の集積度：	満足1.4%	どちらかといえば満足12.6%	
③人材確保のしやすさ（新卒）：	満足0.0%	どちらかといえば満足8.8%	人材面は課題
④人材確保のしやすさ（中途）：	満足0.0%	どちらかといえば満足5.5%	
⑤人材確保のしやすさ（パート）：	満足0.9%	どちらかといえば満足7.0%	
⑥大学・研究機関等との連携：	満足0.9%	どちらかといえば満足4.2%	
⑦従業員の居住環境：	満足5.6%	どちらかといえば満足32.1%	住環境や事業環境は高い評価
⑧事業所と周辺環境との調和：	満足10.2%	どちらかといえば満足41.9%	

(n=215)

【次世代経営への意向・関心】

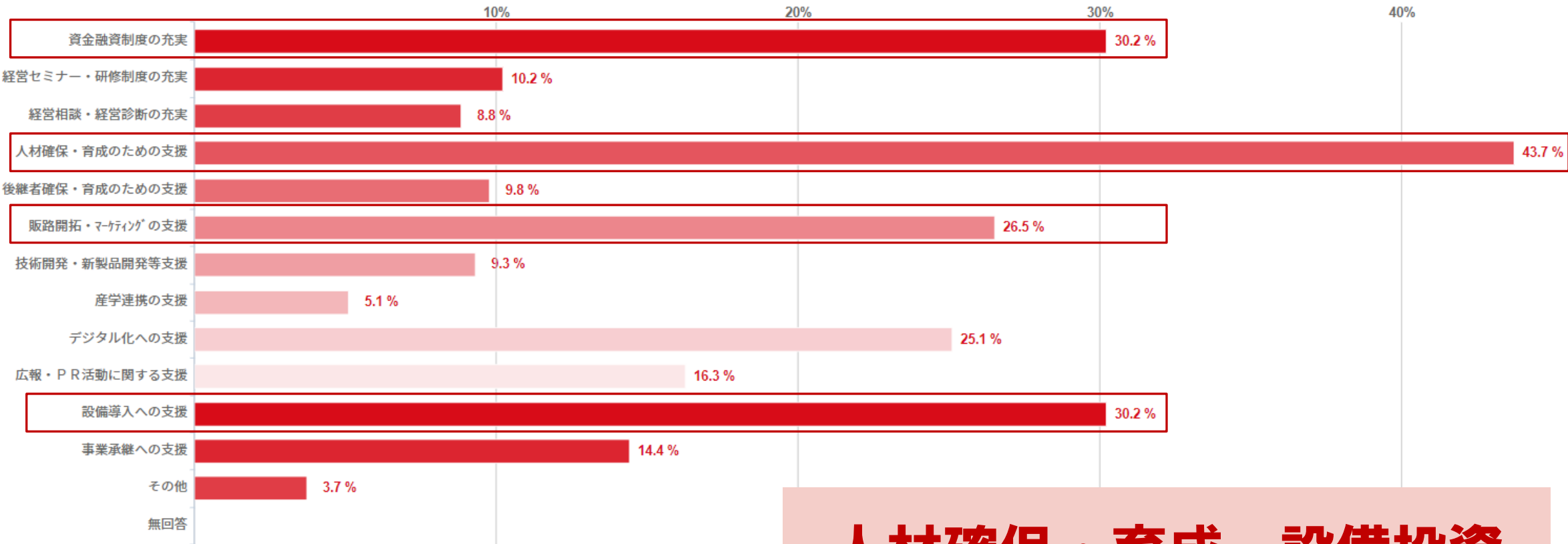
①学生インターンシップの受入：	とても関心9.3%	やや関心29.3%	
②小中高生への職業体験等：	とても関心9.8%	やや関心30.7%	
③UIJターンの受け入れ：	とても関心17.2%	やや関心34.0%	} <u>人材確保への関心</u>
④高度外国人材の受け入れ：	とても関心6.0%	やや関心20.9%	
⑤市内での調達強化や地産地消：	とても関心14.4%	やや関心35.8%	} <u>域内取引への意向</u>
⑥環境配慮型経営の導入：	とても関心15.8%	やや関心38.1%	
⑦デジタル対応：	とても関心18.1%	やや関心37.7%	} <u>次世代経営テーマ</u> <u>にも関心</u>

(n=215)

1. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するアンケート調査

※補足：令和4年10月20日 午前9時時点のデータで集計

【市に期待する支援策】



人材確保・育成、設備投資
販路開拓、資金融資が上位

(n=215)

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【調査概要】

- 対象者：
 - ①丸亀市内の企業、経済団体、個人事業主等 33件
 - ※分野：農水産業、製造業、卸・小売業、観光関連、
宿泊業、個人事業主、各種経済団体など
 - ②庁内関係課 8件
 - 実施期間：令和4年7月～9月
 - 実施方法：訪問又は座談会形式による意見交換
- 計41件

【主なヒアリング内容】

- 企業・団体の概要
- 現在の経営課題やお困りごと
- 第3次産業振興計画に必要な視点・キーワード等

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【産業振興における課題】

▼視点

▼キーワード

▼主なご意見

①人材不足

人材不足の深刻化
人材の域外流出
コロナ禍による人材流出
PR不足

- ・ 産業全般の課題としては人材不足である。Uターンなどの促進により、丸亀で働いてくれる人を増やしていく必要がある。
- ・ 人材不足は深刻であり、それなりの条件を提示しても人が集まらないようだ。特にパートはどこも取り合いになっている。
- ・ サービス業全体としても人材の流出が進んでおり、従業員も多く退職している。退職者は20～30代が多い。コロナ前の状況に戻ったとすると、人材不足で受注することが困難になることは見えている。業界的にも不安は残る。

②地域経済循環

地域経済循環率の低さ
市内取引は限定的

- ・ 丸亀の課題は地域内経済循環率の低さ。地域内で資源が回る仕組みを作らないといけない。
- ・ 沿岸部の大企業と市内企業の連携については、あまり進んでおらず、沿岸部企業はグローバルなサプライチェーンを構築して、世界と戦っている。

③中心市街地

中心市街地の活力低下
経営者の高齢化
物件・施設の老朽化

- ・ 中心市街地の衰退は止まらず、ジリ貧の状況になっている。
- ・ 組合員は「廃業」を前提に対応している状況である。新規事業をするにしても、投資する資金も枯渇しており、デジタル対応などは知識的にも体力的にも対応するのが難しい。
- ・ これからは新規の起業者をどれだけ獲得できるかである。ただし、物件の老朽化が著しい
- ・ 中心市街地の活性化は目下の課題であるが、中央商店街だけでなく、丸亀港から丸亀城までのゾーンの産業振興・活性化が重要である。丸亀駅北側の空き家対策も重要であり、最近は人口減少が顕著になっている。

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【産業振興における課題】

▼視点

▼キーワード

▼主なご意見

④一次産業

後継者・担い手の育成

高付加価値化

地産地消

- ・ 集落営農も後継者がいない。集落営農が本当に50年、100年続いていくのか疑問だ。
- ・ 地域のブランド商品や製品を作ることも大事であるが、個人では限界があるので、地域全体で育てていかないといけない。ブランド化においても、企業体の方が有利である六次産業化は重要な課題であるが、多くの農家は日々の作業に追われており、高齢化も相まって取り組む体力すら残されていない。
- ・ 漁業の高付加価値化も重要だが、高齢化によりすでにその余裕もない。
- ・ 一次産業の高付加価値化はどれだけ対応可能な人間がいるだろうか。
- ・ 一次産業で重要な視点は、地産地消である。少々高くても国内や地場の農産物を食べてもらうような意識醸成が必要だ。海外では子どもでも国内産品への愛着を持っている。

⑤観光・伝統産業

うちわ産業の衰退

周遊観光の促進

持続可能な観光

地場産業×観光の連携

島しょ部の魅力PR

- ・ うちわ産業の衰退がコロナで一気に進んでいる。丸亀うちわの知名度はそれなりに高まっているが、全国的にはまだまだ認知度が低い。市民にももっとうちわが好きになってもらいたい。
- ・ 丸亀の地場産業として、うちわの存在感を高めつつ、観光産業ともドッキングしながら生き残りを図っていくことが重要である。
- ・ 丸亀城だけでなく、域内での周遊につなげていくことが課題。観光業は裾野が広いので、滞在時間を延ばすことで地域にお金を落とすことが大事である。ナイトライフエコノミーも含めて、市内でお金が落ちる仕組みを作っていく必要がある。
- ・ 地場産業と観光との結びつきの強化が必要。
- ・ 瀬戸内国際芸術祭をはじめ、島しょ部にも多くの方が訪問するようになっているので、観光振興の観点からも島しょ部への集客には課題。
- ・ 丸亀市の魅力は、島しょ部である。
- ・ 島しょ部は日本のエーゲ海ともいえるべき魅力があり、これをもっとPRすべきである。

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【産業振興における課題】

▼視点	▼キーワード	▼主なご意見
⑥デジタル対応	中小企業者等を中心に デジタル対応が進まない 効率化から再投資へ	- デジタル対応への関心を持つ企業も増えているが、<u>概念が先行しており、結局それで何をするのかは、各社によって考え方はまちまち</u>である。 <u>効率化によって浮いた人件費や諸経費を再投資に回して</u>、産業規模を維持・発展していく方向にしないといけない。
⑦SDGs・環境対応	中小企業者等への浸透 取組方法への理解が不足	- SDGsや環境経営については、大企業には普及しつつあるが、<u>中小・零細企業にはまだまだ浸透していない</u>。なぜそれが求められる時代になっているのか、という背景を理解してもらう必要がある。何となくイメージアップにつながるというくらいの理解しかないことも多い。認知度がまだまだ足りない。 <u>個人事業主や零細企業でもSDGsや環境経営に触れて</u>、新しい知見やアイデアを得る機会にしてみたい。零細企業で知っているのは、半々くらいである。 - SDGsや環境経営は、国際的な企業経営の基本理念になるという理解が必要である。
⑧その他	子育て支援から産業活力へ ワークライフバランスの推進	<u>子育て支援</u>は、産業政策を下支えする視点からも重要である。 <u>働き方改革の観点からワークライフバランスの推進</u>は必須である。まずは、仕事と家庭のバランスが取れることで、出生率が上がる。 <u>産業政策そのものではないが、産業活力につながる「ソフト面」として重要</u>

（参考）分野別 課題対応表

課題	農水産業	工業・地場産業	商業・サービス業	観光（産業）
人材不足の深刻化	●	●	●	●
人材の域外流出	●	●	●	●
コロナ禍による人材流出			●	●
企業PRの不足		●	●	●
地域経済循環率の低さ	●	●	●	●
市内取引が限定的	●	●	●	●
中心市街地の活力低下			●	
経営者の高齢化・事業承継	●	●	●	●
物件・施設の老朽化			●	
島しょ部への集客				●
後継者・担い手の育成	●	●	●	●
産品の高付加価値化	○			
うちわ産業の衰退				●
周遊観光の促進				●
持続可能な観光				●
地場産業×観光の連携				●
デジタル対応	●	●	●	●
子育て支援から産業活力へ	？	？	？	？
ワークライフバランスの推進	？	？	？	？
SDGs対応	●	●	●	●

⇒いずれの分野にも「●」が付くものが分野横断的に重要なテーマ

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【第3次産業振興計画に必要な視点・キーワード等】

▼視点

▼キーワード

▼主なご意見

① 1次産業の重要性

食料危機
食料価格の高騰
食料安全保障
遊休農地の発生防止

- 食料問題の話が出てきたが、近年、食料危機や食料安全保障の話題が多く取り上げられている。農業者だけでなく、国民全体の問題として危機感を持っていくべきだ。
- 兼業農家を中心とした香川県の小さな農家をどう持続可能なものにしていくか、これから産業政策を推進していく中でしっかりと議論していきたい。
- 人間が生活する中で、根源的に重要なものは「食」であり農業振興である。
- 新規営農者を増やして耕作放棄地を減らすことが求められている。

② 地域の担い手育成

若手農家
新規就農者
U/Iターン促進
産業教育

- 新規就農に興味がある学生も増えている。そういう若い世代と地域がマッチングできれば、地域の魅力がさらに高まる。
- 新規就農者を増やすだけでは不十分である。半農半Xが今流行っているが、農家の後継者は兼業しながら農業やっている。そういう人たちが辞めさせないような仕組みを作るべきだ。
- 商店街をはじめとして、農業などでも「後継者がいない」「夢がない」という問題に直面している。
- 「地域というのは人である」。人々が生き生きと働けるような社会を実現していくために、産業政策を展開すべきである。
- 地元の歴史・文化・自然への理解を深めることで、郷土教育にもつながるだろう。産業の視点はないが、産業も郷土愛を強める重要な要素である。産業教育の視点では、小中学校だけでなく、高校生向けの教育も重要である。

③ 持続可能な地域づくり

持続可能な地方
産業構造の転換
環境への配慮

- 人口減少や高齢化が進む地域でも、若い人と高齢者が共に働いて日々の生活を過ごす取り組みや、ふるさと納税を活用して地域を支えている自治体がある。
- 人口減少は自治体の消滅を意味しない。「人がいる限りは地域は存続し続ける」というような意志を持って地域づくりをしていかなければならない。
- ゼロカーボンやSDGSといった先進的なテーマについて、大手企業はESG投資の一環として独自に取り組んでいくだろうが、民生部門や中小企業者等でこれを進めるためにはかなりのテコ入れが必要である。

2. 第3次丸亀市産業振興計画策定に関するヒアリング調査

【第3次産業振興計画に必要な視点・キーワード等】

▼視点

▼キーワード

▼主なご意見

④デジタル対応

デジタル社会

デジタル化と地域

- デジタル社会というのは、今後必ず来る流れで、それに対して地域がどのように対応していくか考えないといけない。
- デジタル化とコロナということもあり、地域コミュニティが希薄化している。地域を作る上では、デジタルも活用して世代を超えたコミュニケーションが大事になる。
- デジタル化が進んでいるが、それを不便に感じる人も増えていくのではないか。
- 未来技術を活用したロボットの導入も重要である。AIやRPAの導入による定型作業の効率化を進めることは行政的にも課題になっている。

⑤学生の志向の変化

「脱大企業主義」

地域での居場所

やりがい、働きがい

- 学生の価値観も大企業志向だけではなく、「地域で何かをしたい」というような価値観に変わってきている。
- 若い世代の考え方は変わってきている。かつてのように大企業だけに就職したいといった発想は徐々になくなっている。(脱大企業志向)。どちらかという、地域の中でどう自己実現していくかという所に視点が移っている。